

【化学】

久留米の化学は、理論、無機、有機から均等に出題され、無機と理論の融合問題が含まれることになるであろう。

注目すべきは2012年のIで出題されたようなエネルギーに関する計算問題で今年度は燃料電池あるいは有機物の燃焼による熱エネルギーあたりが使用されるのではないだろうか？

特に電池の構造や反応式は入念にチェックしておこう。無機では16族（特に硫黄）、17族が要注意である。例えば接触法と硫酸の濃度計算などである。有機は三大栄養素（炭水化物、タンパク質、油脂から出題されそう）である。今年度は総合問題で全体的な知識を問いかけて来るのではないかとも思われる。

【英語】

久留米の英語の大きな変化は問題内で使われている単語が以前に比べてソフトになって来たことである。また3番に記述方式の英作と和訳を導入して来た点も大きな変化である。

⑤番の文法問題も例年に比較してソフトになって来ている。最後の発音問題も使われている単語の難易度が大きく下がっている。

この変化に気がついている人はこの久留米の変化を狙うべきだろう。

前日が人気の関西医科大があり、東海、帝京の複数受験日もある。そして自然に受験生が集まるそして差がつきにくい福岡があることを考えれば久留米を狙う受験生は選択眼があるのではないかと思われる。

いずれにせよ25日に続き、31日から4日は大きな番狂わせが起こる日程だと思う。また、問題傾向を変えて来るということは大学サイドが受験生の反応を柔軟に取り入れて変化しようという姿勢の表れだと言える。

こういう微妙な変化を早い時期から見抜ける受験生は強いと思う。